

2019年3月期 第4四半期 決算説明会資料

2019年5月7日@ステーションコンファレンス東京
7741.T [ADR: HOCPY US] HOYA株式会社

[メモ付ver.]
説明会におけるコメントや質疑応答を参考情報として記載しております。説明内容をすべて書き起こしたものではありませんのでご了承ください。

1. 決算概要[代表執行役CFO 廣岡 亮]

2. 情報・通信事業概況
3. ライフケア事業概況
4. 総括と今後の展望
5. 質疑応答

業績概況

(億円)	Q4 FY17	Q4 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益	1,359	1,415	+56	+4%
税引前四半期利益	262	314	+52	+20%
四半期利益	195	292	+97	+50%
cf. 通常の営業活動 からの利益	330	351	+20	+6%

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

3

- 売上収益は 1,415億円、前年同期比 56 億円(+4%)の増収
- 税引前四半期利益は 314億円、前年同期比 52億円 (+20%) の増益
- 四半期利益は 292億円で、前年同期比 97 億円の (+50%) の増益

為替換算の影響

(億円)	前期レート 換算(A)	当期レート 換算(B)	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益	1,427	1,415	-12	+68	+5%
税引前四半期利益	312	314	+2	+50	+19%
四半期利益	290	292	+2	+94	+48%

主要通貨	(A)Q4 FY17 レート	(B)Q4 FY18 レート	変動率
US\$	¥107.47	¥110.27	-2.6%(円安)
EURO	¥132.29	¥125.27	+5.3%(円高)
BAHT	¥3.43	¥3.50	-2.0%(円安)

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

4

- 仮に前年同期と為替レートが同じであったとすると、売上収益は実質ベースで 68 億円 (+5%)
- 一方で、利益に対して為替の影響はほとんどなかった
- 税引前四半期利益に対する為替換算の影響は+2億円であり、実質の増益は 50億円(+19%)

特殊要因について

包括利益計算書

(億円)	Q4 FY17	Q4 FY18	YoY
売上収益	1,359	1,415	+56
金融収益	4	7	+3
その他の収益	7	14	+6
収益合計	1,371	1,436	+65
費用合計	1,109	1,122	+13
税引前四半期利益	262	314	+52

1

買収した会社に係る統廃合などの一時費用が増加したものの、前年同期に計上した海外子会社の減損損失に相当するものがなかったため、費用合計は前年と同水準となった。

- 前年同期はブラジルの子会社において56億円程度の減損損失があったが、今期は11億円と損失が比較的小さかった
 - 一方で、持分法による投資損失がなかった前年同期と異なり、今期はインドの医療機器系の会社に関し保守的に会計上の手当てを行い、11億円の損失を計上した
- ※詳細は「決算短信 補足資料」P.14ならびにP.18を参照

ライフケア事業 業績概況

(億円)	Q4 FY17	Q4 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	919	963	+44	+5%
税引前四半期利益	109	158	+49	+45%
cf.通常の営業活動からの利益	181	181	-0	-0%
cf. 同利益率	19.7%	18.8%	-0.9pt	

*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

6

- ライフケア事業の売上収益は 963億円、前年同期比 44 億円の増収
- セグメント利益（税引前利益）は 158億円、前年同期比49億円の増益となった
- 通常の営業活動からの利益率については低下しているが、買収先の拠点の統廃合による一時費用等によるもので、ファンダメンタル面では問題がないと考えている

ライフケア事業 業績概況(為替影響除き)

Q4 FY18業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	980	963	-17	+61	+7%
税引前四半期利益	160	158	-2	+51	+47%
cf.通常の営業活動 からの利益	181	181	-0	+0	+0%

*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

7

- ライフケア事業においては、主にユーロ安により-17億円の影響があり、実質的な増収額は 61 億円であった
- セグメント利益（税引前利益）は、為替換算の影響を除くと、実質的には51億円の増益

情報・通信事業 業績概況

(億円)	Q4 FY17	Q4 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	426	437	+11	+3%
税引前四半期利益	157	184	+27	+17%
cf.通常の営業活動 からの利益	161	183	+22	+14%
cf. 同利益率	37.7%	41.8%	+4.1pt	

*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

8

- 情報・通信事業の売上収益は 437億円、前年同期比 11億円の増収
- セグメント利益（税引前利益）は 184億円、前年同期から27億円の増益となった

情報・通信事業 業績概況(為替影響除き)

Q4 FY18業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	432	437	+5	+6	+1%
税引前四半期利益	182	184	+2	+25	+16%
cf.通常の営業活動 からの利益	181	183	+2	+20	+13%

*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

9

- 情報・通信事業における為替換算の影響は+5億円で、実質的な増収額は6億円であった
- セグメント利益（税引前利益）は、為替換算の影響を除くと、実質的には25億円の増益

サブセグメント別業績

ヘルスケア関連製品 売上収益 メガネレンズ/コンタクトレンズ				
(億円)	Q4 FY17	Q4 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	691	720	+29	+4%
為替換算影響除き				
(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	733	720	+42	+6%

*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

10

- ヘルスケア関連製品（メガネレンズ、コンタクトレンズ）の売上収益は720億円、前年同期比で29億円（+4%）の増収
- 為替換算の影響が-13億円となっており、この影響を除いた実質的な増収額は42億円（+6%）

サブセグメント別業績

メディカル関連 内視鏡 / 眼内レンズ

(億円)	Q4 FY17	Q4 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	227	242	+15	+7%

為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	247	242	+20	+9%

*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

11

- メディカル関連製品（内視鏡、眼内レンズ等）の売上収益は242億円、前年同期比で15億円（+7%）の増収
- 為替換算の影響が-5億円となっており、実質的には20億円（+9%）の伸びとなった
- なお、眼内レンズは買収効果により2桁成長だったが、買収効果除きだとP.22にもあるとおり-4%であった

サブセグメント別業績

エレクトロニクス関連 マスク&ブランクス / HDD基板

(億円)	Q4 FY17	Q4 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	319	348	+30	+9%

為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	344	348	+25	+8%

*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

12

- エレクトロニクス関連製品（半導体、液晶関連製品及び HDD 用ガラス基板）の売上収益は348億円、前年同期比で30億円（+9%）の増収
- 為替換算の影響は+5億円であり、これを加味した実質的な増収額は25億円（+8%）

サブセグメント別業績

映像関連製品 カメラレンズほか				
(億円)	Q4 FY17	Q4 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	108	89	-19	-18%

為替換算影響除き				
(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	89	89	-19	-18%

*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

13

- 映像関連製品の売上収益は89億円、前年同期比で19億円の減収（-18%）
- なお、P.18にもあるとおり、撤退した事業を除くと実態としては-7%であった
- 当該製品においては、為替換算の影響はほとんどなかった

貸借対照表

(億円)	Q3 FY18	Q4 FY18	QoQ
非流動資産	2,348	2,558	+210
流動資産	4,850	5,081	+231
資本	5,966	6,277	+311
非流動負債	156	244	+89
流動負債	1,075	1,118	+42
合計	7,198	7,639	+442

1 Mid Labs/Fritz Ruck買収に伴い、のれん及び無形資産が増加
+182億円

2 現金及び現金同等物 +211億円
その他の短期金融資産 +20億円

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

14

➤ 貸借対照表においては、非流動資産が210億円増加。これは主に1月に買収したMid Labs/Fritz Ruckに係るのれん及び無形資産が182億円増加したため

キャッシュフロー計算書

(億円)	Q4 FY17	Q4 FY18	YoY
営業活動によるCF	395	466	+71
投資活動によるCF	-34	-263	-229
財務活動によるCF	-97	2	+98
現金及び現金同等物 期末残高	2,458	2,934	+476

1 主に眼内レンズにおける製品ポートフォリオ拡大のための買収（Mid Labs/Fritz Ruck）により投資活動による支出が増加

➤ 主に1月に行ったMid Labs/Fritz Ruckの買収により、投資活動に係るキャッシュアウトが229億円増加した

株主還元について



600億円を取得上限とする自社株買いを決定
取得後は消却

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

16

- フリーキャッシュフローや手元資金の水準、M&Aに係る資金需要や資本効率などの要素を検討し、株主還元を実施している
- その結果、本日プレスリリースで公表したとおり600億円、860万株を取得上限とする自社株買いを決定した
- 半年弱の期間で、投資一任契約で買い付けを行う
- なお、買い戻した自社株は全て消却する

1. 決算概要

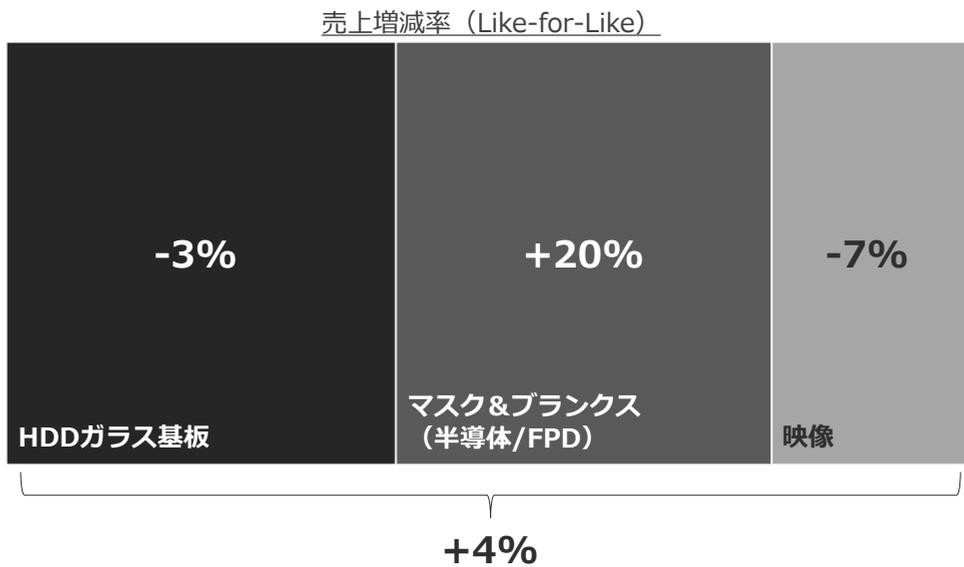
2. 情報・通信事業概況 [執行役COO/CTO 池田 英一郎]

3. ライフケア事業概況

4. 総括と今後の展望

5. 質疑応答

情報・通信事業概況

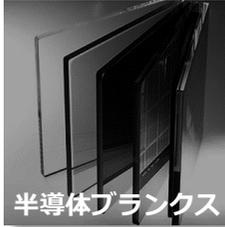


© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

18

- 情報・通信事業は、増収増益に加えて、収益性の改善を達成することができた
- Like-for-Likeベースでは、HDDガラス基板が-3%、マスク&ブランクが+20%、映像は-7%の売上増減率だった

製品別概況



足元

成長が続くEUV用途の売上比率は26%に。
Opticalも7nm量産用途を中心に売上伸張

今後

EUVの量産用途、次世代ノード開発用途を中心
に売上拡大を目指す



足元

主に日本市場におけるFPD需要の減少により、
減収

今後

引き続きスマホ向けを中心とした高精細マスク
に注力

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

19

【半導体ブランク】

- EUV用途がブランク売上上に占める比率が26%となった
- EUV露光機メーカーは年間30台の計画を変えておらず、露光機の出荷に伴い、当社のEUVブランクスへの需要が強くなっていくと見込んでいる
- またEUVの7nmでの量産が始まりつつあり、複数のテープアウトが見込まれる。さらに、5nmや3nmといった次世代ノードの開発も進んでいる
- 最終市場が弱含みなOptical (DUV) においても、増収を達成。ブランクスは最終市場の数よりも、テープアウト数の動向に左右され、当四半期においては主力の半導体メーカーにおける7nm量産用途のテープアウトが好調だった
- 半導体メーカーからの強い需要に質・量の両面においてしっかりと応えて供給していくことが、成長の肝となろう

【FPD/LSIマスク】

- 日本のメーカーにおけるスマートフォン用FPDの需要が大幅に減少し、減収となった
- 成長が著しい中国のパネルメーカーへの高精細マスクの販売に注力していく

製品別概況

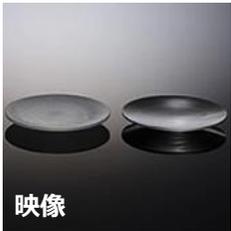


足元

2.5"はSSD要因とHDDの余剰在庫により減収。
3.5"売上は倍増以上、ガラス基板売上の29%に

今後

2.5"は年率20%減少も、停滞中のデータセンターが本年後半に復調、年間での増収を目指す



足元

ミラーレス用レンズが好調に推移も、コンデジ市場の継続的な縮小などにより減収

今後

引き続き、新用途開拓と高付加価値化を推進

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

20

【HDDガラス基板】

- SSDの侵食率が進展したことや、HDDメーカーにおける余剰在庫の影響により、2.5"基板は20%減収となった（想定内）
- 一方、3.5"は倍増以上の増収となり、HDD基板売上に占める比率は29%と、前四半期の19%から大幅に上昇した
- 2.5"はノートPCのみならず、ゲームなどでもSSD化が進み、今後も20%前後の減収を見込んでいる
- FY19上期は2.5"の減少と3.5"の成長のバランスの中で±3%の範囲で進捗すると予想している
- 3.5"は現在HDDメーカー1社が顧客だが、高記録密度化がうまくいっておらず、今後は他の2社についても多枚数化（=ガラス化）していく見込み

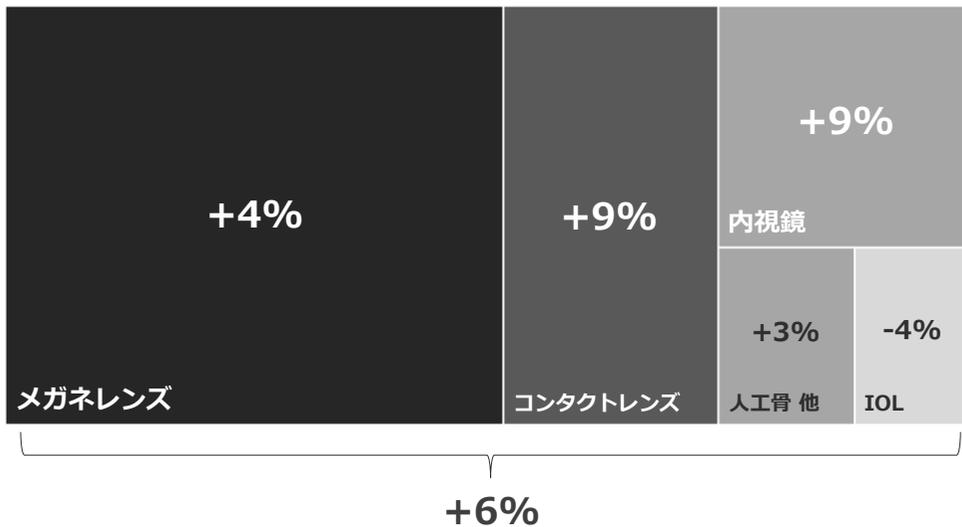
【映像】

- 縮小が続いたコンデジ市場に加え、中国市場における監視カメラ向けレンズが貿易戦争等の影響で在庫が積み上がっており停滞している
- デジカメ業界に依存せず、新たな用途を開拓していく

1. 決算概要
2. 情報・通信事業概況
- 3. ライフケア事業概況 [代表執行役CEO 鈴木 洋]**
4. 総括と今後の展望
5. 質疑応答

ライフケア事業概況

売上増減率 (Like-for-Like)



© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

22

➤ Like-for-Likeベースでの売上増減率については、メガネレンズが+4%、コンタクトレンズが+9%、内視鏡が+9%、眼内レンズが-4%であった

製品別概況



足元

価格下落の懸念があった欧州が安定的に推移するなど、全地域で総じて増収

今後

主に米州とAPACでのシェア拡大により成長を図る。現在17%のシェアを中期的に20%へ



足元

新規出店や高機能素材等の付加価値製品の販売促進による単価UPで増収。新規8/閉店2

今後

全国的に出店余地があるため、年間20店舗前後の出店やM&Aを計画

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

23

【メガネレンズ】

- 地域別では日本が+3%、ヨーロッパが+3%、APACが+5%、米州が+6%であった
- 物量が増えてきており、再び設備投資を行うこととした（※P.48参照）

【コンタクトレンズ】

- 新規出店が奏功したほか、「生感覚レンズ」などと謳うシリコンハイドロゲルなどの高機能素材の製品販売が好調
- 増収の半分は単価上昇、残りの半分は新規出店等による集客増
- コンタクトレンズ専門店やネット販売は成長しており、今後も市場は成長していくと思われる

製品別概況



足元

中国の代理店での余剰在庫消化推進も、全体で減収。1月にMid Labs/Fritz Ruck買収完了

今後

余剰在庫の問題を早期解決し、成長軌道への復帰を目指す。買収した会社の統合を推進



足元

全地域で増収。新製品効果や欧州における大型案件の獲得等が貢献

今後

新製品を継続投入。体制が整った米州、市場成長性の高いAPACを中心に拡大

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

24

【眼内レンズ】

- 直販を行っている日本、欧州は変わらず好調だったが、中国の代理店やOEM販売の不調が続いた
- 眼内レンズとの親和性が高い眼科手術機器を製造するMid Labs/Fritz Ruckの買収を完了した

【内視鏡】

- 新製品効果が本格的に出てくるのはFY19以降だと見込んでいる
- 気管支向けのディスプレイ内視鏡の開発を開始
- AIについては今後診断の補助機能として採用されていこう

1. 決算概要
2. 情報通信事業概況
3. ライフケア事業概況
- 4. 総括と今後の展望 [代表執行役CEO 鈴木 洋]**
5. 質疑応答

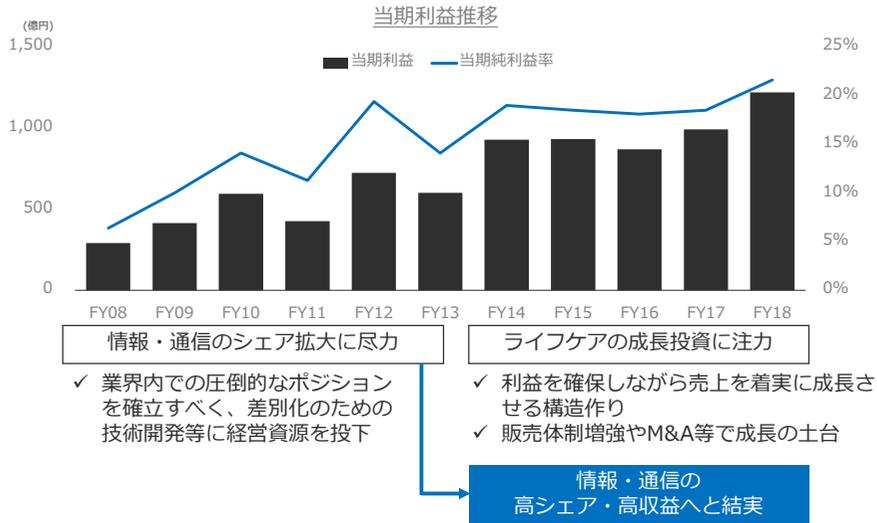
[FY19について]

FY19は下期以降に減価償却費が増加していくため、ライフケア事業の収益性をもう一段上げたいと考えている

ライフケア事業の成長加速にシフトするつもりだったが、もう一度収益拡大にウェイトを置く必要がある

過去10年の振り返り

注力分野と成果



© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

26

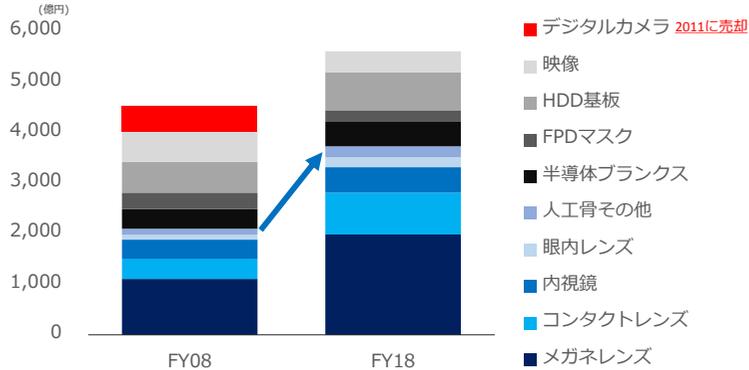
- 過去10年を前半5年、後半5年と区切ったものがこのグラフ
- 前半5年は情報・通信事業において、市場での地位確立のための研究開発や戦略的価格競争等を行い、収益を犠牲にして「小さな池の大きな魚」を目指した
- 後半5年はギアをライフケア事業に入れ替え、収益を犠牲にせずとも売上成長するための基盤構築を行った
- なお、今後の10年では情報・通信事業の規模は劇的には大きくならないと考えられ、ライフケアがボルトオンを含め成長の主役となろう

過去10年の振り返り

事業ポートフォリオの変遷

- ✓ 2007年 内視鏡事業を買収、メディカル分野に本格参入
- ✓ 成長性やシナジーが乏しい事業から撤退
- ✓ 結果として、ライフケア（グラフ青系統）の構成比が46%から66%に

売上構成比 FY08 vs FY18



© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

27

➤ 結果的に事業ポートフォリオにおいて、ライフケア事業が66%に拡大した

過去10年の振り返り

株主価値の最大化への取り組み

- ✓ FY08 取締役会において社外取締役が過半数となり、経営の緊張感と監督機能の実効性の点でブレイクスルー
- ✓ 資本コストを意識した株主重視の経営、積極的な株主還元を実施
- ✓ 時価総額は過去最高の水準に

取締役の人数の変遷

※青が社外取締役

FY95 社外取締役制度を導入



FY08



FY18



© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

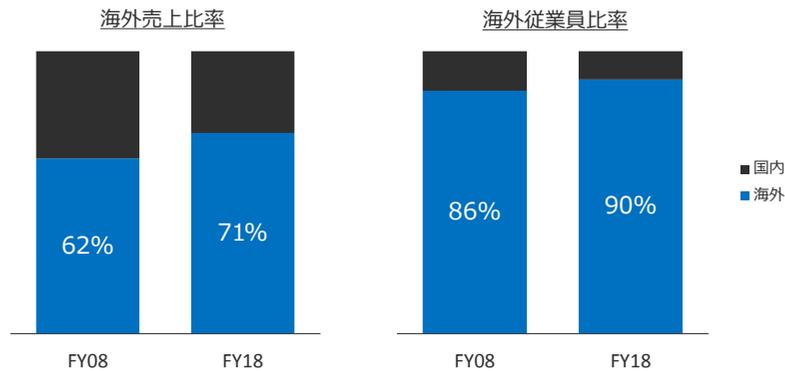
28

- コーポレート・ガバナンスにおいては、社外取締役が過半数を占めることに意味があると考えている
- 社外取締役が過半数を超えたときから、経営に対する緊張感が大幅に変わった

過去10年の振り返り

グローバル化の推進

- ✓ 最適地 生産/販売/経営を推進
- ✓ 人材のグローバル化を進め、経営トップ現地化比率97%、外国籍の執行役も
- ✓ 「脱日本」や欧米展開の点では進んだが、新興国を含む多様な地域での競争力のある経営基盤の構築といった真のグローバル化は道半ば



© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

29

- 新興国も含め、各地域での仕事の進め方や人とのリレーションシップなどを理解することが必要であり、その点ではグローバル化は道半ば
- 例えば米国の会社は「アメリカ式でのグローバル化」をしており、当社として真のグローバル化にあたって目標とすべき会社がないこともあり、今後も試行錯誤しながらグローバル化を進めていくことになる

HOYAの経営哲学

小さな池の大きな魚

創造と革新により、ニッチな市場におけるリーディングカンパニーを目指すこと

事業ポートフォリオ経営

- ✓ 事業が現状どのライフサイクルにあるかを見極め、より成長性の高い領域への経営資本を配分
- ✓ ビジネスモデルや景気感応度等が異なる事業の組み合わせによるリスク分散



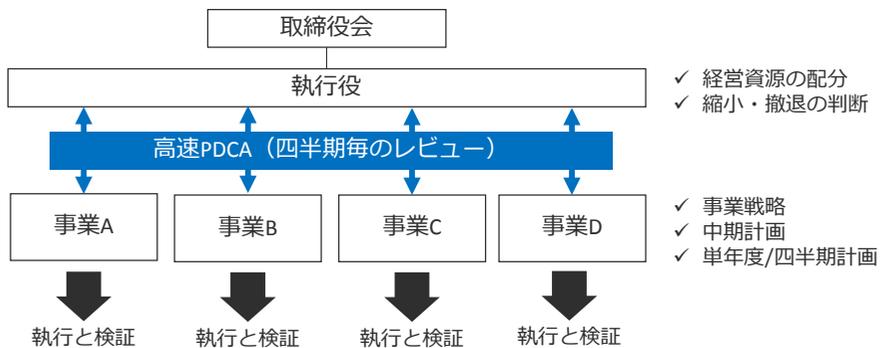
© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

30

- グローバル・ニッチを目指す哲学は不変
- 出来る限り競争が少なく、絶対的強者のいない市場を選んで参入していく
- メガネレンズや内視鏡はガリバーがいるが、時間をかければ「小さな池」を見つけられると考えている

HOYA Management System

- ✓ 高速PDCA: 「長期的成長のために短期業績を犠牲にしてはならない」の考えから、四半期単位で各事業のレビューと改善検討
- ✓ Number Driven: 判断において財務上の数値が全て



© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

31

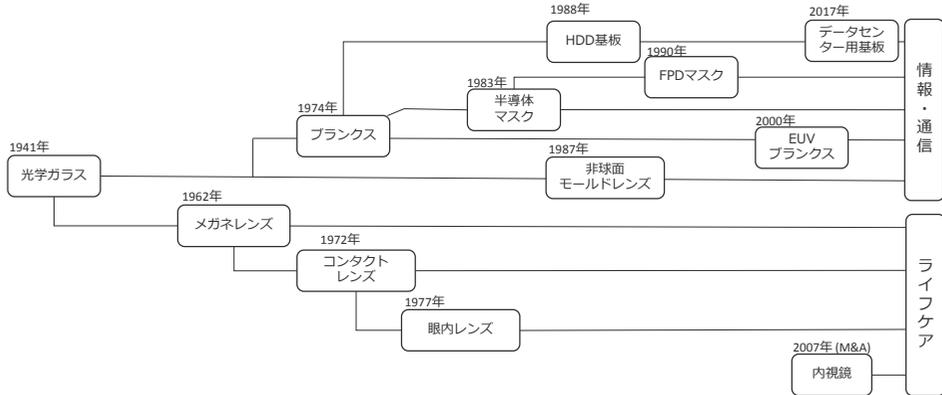
- 予算サイクルが四半期ごとで経営していることがHOYAの特徴的なところ
- 3年の計画などは、環境の変化などもあり予想は困難であり、意味のある計画とならない
- 3ヶ月単位で、細かいレベルまで分解して徹底的に分析し、プロセスを回している

今後の10年間で取り組むこと

過去80年の変遷

光学技術を原点に技術とテーマのスコープを拡大

非連続的成長の点で、内視鏡の買収はHOYAにとって大きな転換点となった

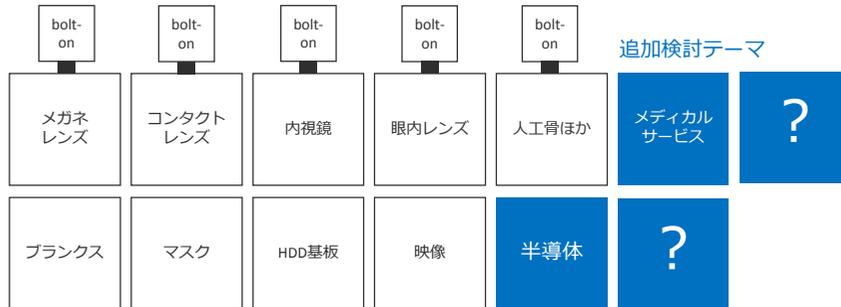


Core Technology	光学設計	組成	溶解	成型	研磨	成膜	微細加工
Theme	光学	生活	精密	ヘルスケア	医療		

今後の10年間で取り組むこと

事業ポートフォリオの変革

- ✓ 引き続きbolt-on（既存事業の機能補完的M&A）を進めながら、ポートフォリオ追加の大テーマとして「**メディカルサービス**」と「**半導体**」を検討
- ✓ 大テーマの中での「小さな池」を特定し、M&A/内部開発問わず事業機会を創出



© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

33

- 半導体の領域で「小さな池」を探すべく、種まきを行っている
- 長期的にはメディカルサービスの領域において、手術も含めてパッケージで展開していくことも検討

その他、注力していく事項

ダイバーシティ

- ✓ ダイバーシティプロジェクト「みんなが活躍できる職場づくり」の一環として、女性の採用拡大と職域拡大に取り組んでいるほか、女性従業員を対象としたキャリアアップセミナーや、部門横断的な交流などを推進
- ✓ 国籍や人種のダイバーシティも引き続き推進
- ✓ 執行役/取締役のダイバーシティは今後の検討課題

サクセッションプラン

- ✓ 次世代経営層の育成
- ✓ サクセッションプランの構築（社外取締役、指名委員会が推進）

- ダイバーシティについては、制度は既に整備しているが、人間そのものの考え方を変えることが難しい
- 人種や国籍、性別などを問わず、人間同士で付き合いしていく文化を作っていくことが今後の課題
- 私（CEO鈴木）の年齢（60歳）に鑑み、社外取締役で構成される指名委員会がサクセッションプランを議論している

HOYAが目指す姿

- ✓ 時代が求めるビジネスを創出し続ける存在意義のある企業であること
- ✓ 企業価値の向上と社会・経済・文化への貢献が同一ベクトルにあること
- ✓ 企業価値の向上と利益還元により株主に貢献する企業であること

1. 決算概要
2. ライフケア事業概況
3. 情報・通信事業概況
4. 総括と今後の展望
- 5. 質疑応答**

質疑応答内容

Q

半導体市況はいつ復調すると思われるか？

A

本年後半には復調するというのが半導体業界のコンセンサスとなっているが、私個人としては懐疑的である。本年後半になっても復調しないのではないか。

※今回の決算説明会はプレゼンテーションに時間を割いたため、質疑応答は上記1問のみとなっています。

Appendix

連結業績（年間累計）

(億円)	FY17	FY18	YoY	YoY(%)
売上収益	5,356	5,658	+302	+6%
税引前利益	1,242	1,447	+204	+16%
当期利益	992	1,221	+229	+23%
cf. 通常の営業活動 からの利益	1,295	1,485	+190	+15%

売上収益、利益ともに過去最高を更新

ライフケア事業 業績（年間累計）

(億円)	FY17	FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	3,529	3,734	+205	+6%
税引前利益	564	693	+128	+23%
cf.通常の営業活動 からの利益	636	742	+106	+17%
cf. 同利益率	18.0%	19.9%	+1.9pt	

*外部売上の数値

情報・通信事業 業績（年間累計）

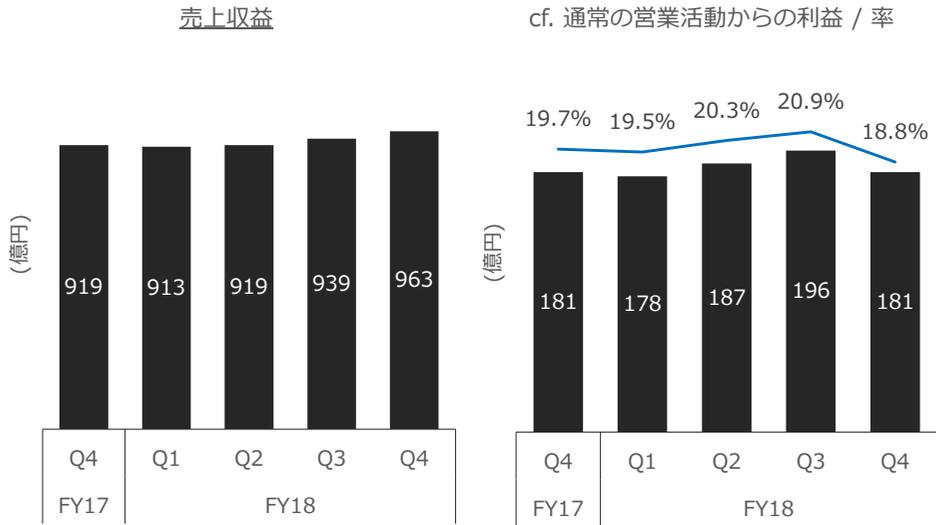
(億円)	FY17	FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	1,785	1,875	+91	+5%
税引前利益	700	806	+106	+15%
cf.通常の営業活動 からの利益	701	796	+95	+14%
cf. 同利益率	39.2%	42.4%	+3.2pt	

*外部売上の数値

キャッシュフロー計算書（年間累計）

(億円)	FY17	FY18	YoY
営業活動によるCF	1,355	1,466	+111
投資活動によるCF	-685	-701	-16
財務活動によるCF	-1,173	-328	+845
現金及び現金同等物 期末残高	2,458	2,934	+476

ライフケア事業 QoQ推移

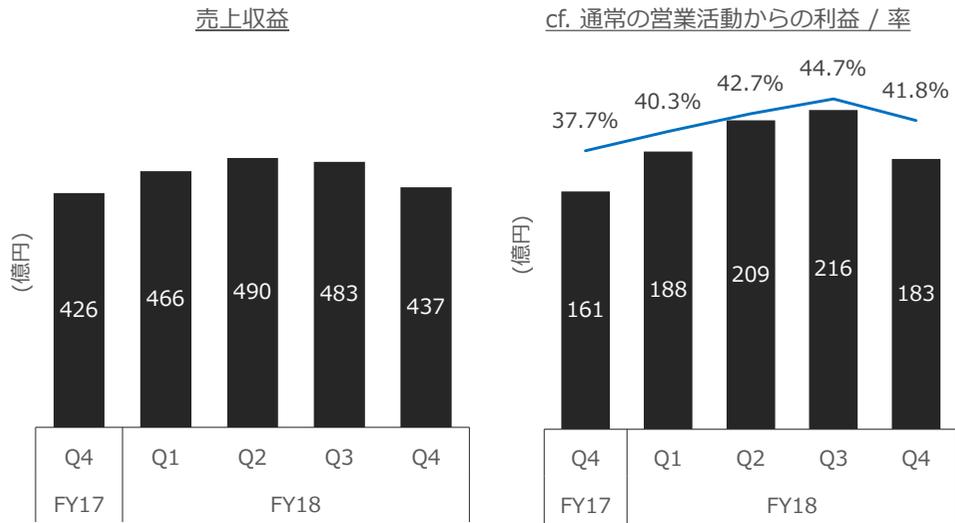


*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

43

情報・通信事業 QoQ推移



*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

44

Topics



[HDD基板] ラオス工場の建設開始

- ✓ 2019年2月、ラオスにてデータセンター向けHDD基板（3.5"）の新工場の地鎮祭を実施、建設が開始
- ✓ CY20上期中に稼働開始、CY21前半にはフル稼働を目指す



[メガネレンズ] ベトナム第2工場の建設開始

- ✓ 2019年1月に行われたベトナムの工業団地への新規進出企業に対するビジネスライセンスの授与式に出席
- ✓ ベトナムで2つ目となる工場の建設を開始、CY19末には操業開始予定

本資料の表記について

- ✓ 当社は国際会計基準（IFRS）を適用しています。
- ✓ 2018年4月～2019年3月の会計期間を2019年3月期もしくはFY18と表記しています。
- ✓ 第1四半期、第2四半期、第3四半期、第4四半期をそれぞれQ1, Q3, Q4, Q4と表記しています。
- ✓ 億円未満の金額は四捨五入しており、そのため合計値が合わない場合があります。
%は実際のコ額を基に算出しています。
- ✓ Like-for-Likeとは、為替換算影響やM&A効果、その他のイレギュラーな要素を除き比較した変動率を指します。
- ✓ 通常の営業活動からの利益は、税引前利益から金融収益・費用、持分法投資損益、為替差損益及び非経常的に発生する損益等を除いて算出している参考値です。
- ✓ 本資料の財務諸表は明細を割愛しています。詳細な財務情報は決算短信もしくは決算短信補足資料をご覧ください。
<http://www.hoya.co.jp/investor/kessan.html>

免責事項

本資料は、当社の評価を行うための参考となる情報提供のみを目的としたものです。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承下さい。当資料に掲載されている将来に関する記述の部分は、資料作成時点の判断ですが、その内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。